

令和5年度 第2回障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会について（概要）

[日 時] 令和6年1月23日（木） 13:30～16:00

[場 所] 檜山合同庁舎 4階 講堂

【障がいのある方への意思決定支援について】

※資料「障がいのあるカップルの妊娠・出産・育児を考える」により、障がいのあるカップルが各ライフステージで活用可能な社会資源、相談機関について共有を行った。

【地域課題「8050問題」について】



今まで委員の皆さんからいただいた意見の中から

Point① 『学校卒業後、自宅に引きこもり、相談機関とつながっていない現実!』

- ・今は不登校の生徒が30人に1人の現実。家（家族）が安心していられる場所になっている。
- ・学校卒業し、そのまま引きこもり！いったん就労したけど実家に戻って引きこもり！
- ・相談機関や行政とつながっていないケースがある。
 - ⇒支援機関（者）を必要としていないのか？
 - ⇒そもそも、相談機関とどうつながっているのか分からない！

Point② 『引きこもっている子どもを抱えている親の意識は?』

- ・自分が生きている間は見る（支える）
- ・終活は財産だけでなく、人（家族）の終活も含まれるイメージもあるのでは？
- ・支援の介入…そこに本人の意思確認はできているか？が重要であり、せめて選択肢があることが望ましい。
- ・自宅訪問…親の年金（経済的な援助）で生活できていることが多く、福祉サービス優先ではない現実も見える。

Point③ 『引きこもった理由・原因～背景をみる』

- ・気づきは…「いつ」「誰が」「どこで」「どう気づいたか」
 - ・障がいが明確になっていない子ども／心配な子どもはどのように将来につなげていくのか
- ※次に引き継ぐシステムが理解されていないのでは？

- ・ **学校・相談機関と行政が情報共有し、支援体制を広く住民に周知していきたい！**

○親の高齢化がきっかけとなって発覚することが多いので「8050問題」と呼ばれているが、その年代だけの問題ではないと考えられる。これまで委員会の中で話してきたケースの内容から、檜山という地域の中でこの問題の特徴や関係機関での関わり方を考えることとし、

「(本人が) 18歳になる前」「18歳になった後」の2つのライフステージそれぞれについて、課題となる要素を抽出し、意見交換を行った。

(詳細別紙)